

岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第35冊

鹿田遺跡 13

— 第26次調査 —

(医学部動物実験施設改修に伴う発掘調査)

2019年

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

序

岡山大学鹿田キャンパスにひろがる鹿田遺跡の発掘調査を、本学が開始したのは1983年度以降です。現在、学内設置部局である埋蔵文化財調査研究センターが調査を担っていますが、同体制を整える契機となったのは、37年前、1981年度に実施された医学部附属動物実験施設新営工事です。同工事の際に、本学が岡山市教委への必要な対応を欠いたことで、同地点に広がる埋蔵文化財の破壊をまねくこととなり、その事態を背景に学内に調査組織が設置されるに至りました。

同工事地点は、その後の発掘調査成果から、鹿田遺跡の中世集落を評価する上で重要な位置にあったことが予想されることとなりました。鎌倉時代の濠がめぐる大型の屋敷地空間の南端ライン上にあたる可能性が高まったからです。その解明は、同集落の中心的な屋敷地の実態を蘇らせるものであり、消滅したデータを鑑みるに、それを検証できないことは非常に残念なことでした。

鹿田遺跡第26次調査となる本調査では、調査地点が問題の建物の東側に並ぶことから、同仮説の検証に期待がもたれるなかで、屋敷地南端ラインに加えて南東コーナー部を構成する濠の存在をも確認することができました。それによって従来の仮説を検証することができた点は大変貴重な成果となりました。また、弥生～古墳時代のデータからは、同時期における集落南西部の土地利用の状態が描き出されています。鹿田遺跡では、近年、水田畦畔の報告などの耕作地の広がりや報告されていますが、かつては予想されなかったものです。こうした遺構の認定は難しい場合が多いなかで、本調査では、積極的にその可能性を求める取り組みが進められました。こうした姿勢を、新たな成果への手がかりを得る一歩としたいところです。

本調査の成果によって、かつて失われた貴重なデータの復元に対して、ほんの一部ではありますが、多少なりとも責務を果たせたのではないのでしょうか。本遺跡では、これまで27回におよぶ発掘調査が大きな成果を上げてきています。そうした調査の始まりの礎となった場所での本調査を通して、改めて鹿田遺跡の発掘調査あるいは本学埋蔵文化財保護の原点に立ち返り、今後につなげていくことが大切でしょう。

調査にあたっては、建設工事現場と近接した中での調査であり、安全管理などの様々な面で関連機関・関連部局の方々には大いにご支援いただきました。関係各位に改めて感謝申し上げる次第です。

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

センター長（理事） 菅 誠 治
副センター長 山 本 悦 世

目 次

第1章 歴史的・地理的環境	(山口雄治)	1
第1節 遺跡の位置と周辺遺跡		1
第2節 鹿田遺跡		3
a. 構内座標の設定		3
b. 遺跡の概要		5
第2章 調査に至る経緯と概要	(山口)	9
第1節 調査に至る経緯と経過		9
a. 調査に至る経緯		9
b. 調査と報告書の体制		9
c. 調査の経過		10
第2節 調査の概要		11
第3章 調査の記録		13
第1節 調査地点と層序		13
a. 調査地点の位置		13
b. 層序		14
c. 地形復元		17
第2節 弥生時代～古墳時代の遺構・遺物		18
a. 井戸		19
b. 土坑		22
c. 溝		24
d. 耕作関連遺構		29
e. 焼土溜まり		30
第3節 古代の遺構・遺物		30
a. 土坑		30
第4節 中世前半の遺構・遺物		31
a. 井戸		32
b. 土坑		37
c. 溝		39
d. ピット		52
第5節 近世の遺構・遺物		53
a. 土坑		53
第6節 包含層ほかの出土遺物		54
第4章 自然科学的分析		
第1節 鹿田遺跡第26次調査小区画溝群の軟X線写真撮影・観察	(渡辺正巳)	56
第2節 鹿田遺跡第17・26次調査出土木製品類と自然木の樹種	(能城修一)	65
第3節 鹿田遺跡第26次調査出土曲物の樹種同定	(株吉田生物研究所)	74
第4節 鹿田遺跡第26次調査出土曲物付着有機物の材質調査	(株吉田生物研究所)	77
第5節 鹿田遺跡第26次調査出土漆製品の塗膜構造調査および樹種同定	(株吉田生物研究所)	78

第6節 鹿田遺跡第26次調査出土動物遺存体	（江川達也）	81
第7節 鹿田遺跡第26次調査出土種子と種子圧痕	（岩崎志保・沖陽子）	82

第5章 結語	87
--------	----

遺構一覧表	88
-------	----

写真図版

挿図目次

第1章	図27 溝9断面・出土遺物	27	
図1 周辺遺跡分布図	2	図28 溝10断面	27
図2 岡山大学鹿田キャンパス内における 発掘調査地点と構内座標	4	図29 溝11断面・出土遺物	28
第2章	図30 溝12断面	28	
図3 調査風景他	10	図31 溝13断面	28
図4 遺構全体図 （弥生時代後期～古墳時代前期前葉）	11	図32 溝14断面	29
図5 遺構全体図（古代～近世）	12	図33 帯状高まり・溝15・16断面	29
第3章	図34 小区画溝群	29	
図6 調査地点位置図	13	図35 焼土溜まり	30
図7 A地点調査区断面および断面位置	15	図36 古代遺構全体図	31
図8 B地点調査区断面	16	図37 土坑8・出土遺物	31
図9 調査区断面写真	16	図38 中世前半遺構全体図	32
図10 弥生時代～古墳時代前期前葉遺構全体図	18	図39 井戸3	33
図11 井戸1	19	図40 井戸3出土遺物1	34
図12 井戸1出土遺物	20	図41 井戸3出土遺物2	35
図13 井戸2	21	図42 井戸3出土遺物3	36
図14 井戸2出土遺物	22	図43 土坑9・出土遺物	37
図15 土坑1	22	図44 土坑10	37
図16 土坑2・出土遺物	23	図45 土坑10出土遺物	38
図17 土坑3・出土遺物	23	図46 土坑11・出土遺物	38
図18 土坑4	23	図47 土坑12	39
図19 土坑5	24	図48 土坑13	39
図20 土坑6	24	図49 土坑14	39
図21 土坑7	24	図50 溝17断面・出土遺物	40
図22 溝1・2・3・4断面	25	図51 溝18断面・出土遺物	41
図23 溝5断面	25	図52 溝19断面・出土遺物	42
図24 溝6断面・出土遺物	26	図53 溝20断面	42
図25 溝7断面・出土遺物	26	図54 溝21断面・出土遺物	42
図26 溝8断面	27	図55 溝22 a 断面1	44
		図56 溝22 a 断面2	45
		図57 溝22 a 張り出し部断面	45

図58	溝22 b 断面	46	図8	植物珪酸体ダイアグラム：OS1	61
図59	溝22出土遺物 1	47	図9	植物珪酸体ダイアグラム：OS2	61
図60	溝22出土遺物 2	48	図10	顕微鏡写真：植物珪酸体	63
図61	溝22出土遺物 3	49	図11	顕微鏡写真：花粉・孢子	64
図62	溝22出土遺物 4	50	第2節		
図63	溝22出土遺物 5	51	図1	鹿田遺跡第17・26次調査出土 木製品類と自然木の顕微鏡写真(1)	68
図64	溝23断面	51	図2	鹿田遺跡第17・26次調査出土 木製品類と自然木の顕微鏡写真(2)	69
図65	溝24断面	52	図3	鹿田遺跡第17・26次調査出土 木製品類と自然木の顕微鏡写真(3)	70
図66	溝25断面	52	第3節		
図67	溝26断面	52	図1	顕微鏡写真 1	75
図68	ピット 1・出土遺物	53	図2	顕微鏡写真 2	76
図69	近世遺構全体図	54	第4節		
図70	土坑15	54	図1	断面写真	77
図71	包含層出土遺物	55	第5節		
第4章			図1	分析資料と塗膜断面	79
第1節			図2	断面写真	80
図1	調査区の配置	56	第7節		
図2	調査区平面図（試料採取地点）	56	図1	出土種子(1)	84
図3	試料採取地点断面図	56	図2	出土種子(2)	85
図4	軟X線写真観察結果：OS1	58	図3	土器圧痕の位置・拡大写真とSEM画像	86
図5	軟X線写真観察結果：OS2	58			
図6	花粉ダイアグラム：OS1	59			
図7	花粉ダイアグラム：OS2	59			

表 目 次

第3章		表2	樹種一覧（第26次調査）	72	
表1	調査区断面における各層位レベル一覧	16	第3節		
第4章		表1	岡山大学鹿田遺跡出土木製品同定表	74	
第1節		第4節			
表1	微化石概査結果	59	表1	調査資料	77
表2	花粉化石組成表	60	第5節		
表3	植物珪酸体化石組成表	61	表1	調査資料	78
第2節		表2	漆器の断面観察結果表	78	
表1	鹿田遺跡第17・26次調査で出土した 木製品類と自然木の樹種	71	第6節		
表1 a	鹿田遺跡第17次調査で出土した 木製品類と自然木の樹種	71	表1	鹿田遺跡第26次調査出土動物遺存体種名	81
表1 b	鹿田遺跡第26次調査で出土した 木製品類と自然木の樹種	71	表2	鹿田遺跡第26次調査出土動物遺存体属性	81
			第7節		
			表1	検出種子一覧	83
			表2	種子圧痕同定結果一覧	85

図版目次

図版1	古墳時代の井戸1	図版11	中世前半の溝22(2)
図版2	古墳時代の井戸2・土坑1	図版12	中世前半の溝22(3)
図版3	古墳時代の土坑2～6	図版13	中世前半の溝22(4)～26・ピット、近世の土坑15
図版4	古墳時代の土坑7、弥生・古墳時代の溝1～11	図版14	古墳時代の井戸出土遺物
図版5	弥生・古墳時代の溝12～16・帯状高まり・焼土溜まり	図版15	中世前半の土坑・溝出土遺物(1)
図版6	古墳時代の小区画溝群	図版16	中世前半の溝出土遺物(2)
図版7	中世前半の井戸3	図版17	古墳時代・中世前半の井戸出土木製品(1)
図版8	古代の土坑8、中世前半の土坑9～12	図版18	中世前半の井戸出土木製品(2)
図版9	中世前半の土坑13・14・溝17～19	図版19	中世前半の溝出土木製品(3)
図版10	中世前半の溝20～22(1)	図版20	中世前半の溝出土木製品(4)、土製品、石製品

例言

1. 本書は岡山大学埋蔵文化財調査研究センターが、岡山大学医学部動物実験施設改修に伴って実施した鹿田遺跡第26次調査の発掘調査報告書である。
調査地点は、岡山市北区鹿田町2丁目5番1号に所在する。
発掘調査地点は鹿田地区構内座標CD56～CJ58、CJ61～CK62区に位置し、期間は2014年8月18日～11月17日、調査面積は295.5㎡である。
2. 発掘調査および報告書作成は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会の指導のもとに行われた。委員諸氏に御礼申し上げる。
3. 本書作成に当たっては、以下の方々にご教示・ご協力いただいた。また、能城氏・沖氏・江川氏からは玉稿を賜った。記して感謝申し上げます。
石材同定：鈴木茂之氏（岡山大学大学院自然科学研究科）、木材同定：能城修一氏（明治大学）、種実同定：沖陽子氏（岡山大学特命教授）、動物遺存体同定：江川達也氏（笠岡市教育委員会）
4. 発掘調査時の遺構実測・写真撮影は、調査体制の項で記載する調査研究員が行った。
5. 報告書作成に当たっての主な担当は以下の通りである。
<遺物>土器・土製品・石器：(実測・浄書・観察表) 南健太郎・山口雄治
(実測補助) 有賀紅美・大久保雅子・小野素子・西本尚美
木製品：(実測・浄書) 南・小野、(観察表) 南
写真撮影：南
<遺構>浄書：山口
6. 本書の執筆分担は目次に示した。
7. 編集は山本悦世（副センター長）・清家章（調査研究室長）の指導のもと、山口が担当し、南の協力を得た。
8. 発掘調査の概要は『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2014』に一部報告しているが、本書をもって正式なものとする。
9. 本書で使用した地形図は、建設省国土地理院発行の1/25000の地形図「岡山北部」と「岡山南部」(平成6年度発行)を合成して使用したものである。
10. 本書に掲載した記録・出土遺物は全て本センターで保管している。

凡例

1. 本書で用いる高度値は海拔表高であり、方位は国土座標V座標系（日本測地系）の座標北である。
2. 遺物番号は遺構別に番号を付するが、土製品にはT、石器にはS、木器にはWを付して通し番号とする。
3. 遺構に関するデータは一覧表にまとめた。
4. 拓本は、内・外面を掲載する場合は、左側に外面、右側に内面を置く。片面の場合は外面を基本とした。
観察表の表記基準は以下の通りである。
①胎土は、微砂：砂粒径0.5mm以下、細砂：0.5～1mm、細礫：2mm以上
②法量の単位は「cm」である。数値の差が3mm以下の場合は、平均値とし、以上の場合は併記した。
5. 土層注記では鉄分をFe、マンガンをMnと表記した。一般的なものは省略している。また、下記の記号を用いて含有量を示している。
◎：顕著な含有、○：含有、△：少量の含有
6. 巻末図版の遺物番号は、本文中の遺物番号に一致する。